

月刊島民

中之島

Vol.41 2011 12/1

●iPadサイズ(と、ほぼ同じ)

橋を渡る人の「街事情」マガジン



ナカノシマ大学

「工場は生きている。
～大阪のものづくりを考える～」
加藤正文&綱本武雄

申し込み受付中!

中之島の
「現場」から。



ビル建設速報!

中之島の「現場」から。

月刊島民ではこれまで、昔の建築物の歴史や、新しくできたビルなどを紹介してきた。ただ、「工事中」の建築物もまた中之島の二つの動きだと言える。目玉となる構造や、最新の技術を垣間見ることは、中之島の未来を先取りするような楽しさがある。

実況(取材文)／大迫力 写真／李宗和
ゲスト解説／高岡伸二(建築家BMC)



このブレースは
断面約85×120cm、
厚み60~80mm、
重さは1本40トン以上!



正反対の構造をつなぐ、メガトラス。

中之島 フェスティバル タワー

●2012年10月末 竣工予定
<http://www.asahi.com/festivaltower/>

「ぜひ話を聞いてほしかったんですよ!」。満面の笑みで迎えてくれたのは、施工を担当する竹中工務店の岡橋稔さん。建築主である朝日新聞社とのタッグで、これまで中之島に数々の名作を生んできたが、今回の現場でもすごい技術やアイデアが採用されている。既報どおり、中之島フェスティバル

タワーは、名ホールの誉れ高きフェスティバルホールの上に新聞社やオフィスの入る高層タワーを造る複合的構造物となる。だがホールの中は無柱構造。つまり、地上15階から39階まであるタワー部分を柱の無い「箱」の上にのせなければいけない。そんな誰が考えても矛盾するように思われる建築

ビルの中に装置のある 珍しい免震の方法。

通常、ビルの免震装置は地下など基礎に近い部分に設置される。だがフェスティバルタワーの場合、基礎部分に置こうとすると、とてつもなく大きな装置が必要になることから、ホールとメガトラスの間の層に設置されることとなった。免震装置は特殊なゴムと揺れを抑えるブレーキの動きをするオイルダンパーで構成され、大臣柱を支える巨大な免震ゴムは全部で16基。1基で支えられる荷重はなんと最大約6000トンだ。一方、ホール部分は柱がない分、非常に固い壁で覆われ、地震にも強い頑丈な造りになっている。というわけで、高層タワー部分は免震、ホール及び低層部は耐震と、揺れに対して異なる方法で対応しているのだ。うーん、すごい。



免震
中間層



ホール

名ホールの音を再現するために。

既にかいたとおり、4～8階部分にあたるホールは、柱のない大きな箱のようになっている。もう一つの問題は、外部からの音を遮断すること。これには「浮き遮音層」を設ける方法が採られている。卵の殻の中に薄い膜があるのを思い浮かべてほしい。ホールの床・壁・天井部分すべてにおいて、構造体との間に特殊なゴムを設置。大きな構造体の中にホールが浮かんでいるようなイメージだ。これによって地面の下を走る地下鉄などの音や振動をシャットアウトする。ホールの開業は2013年の春に予定されている。



外装のレンガは特注品。積み方にも工夫。

だんだんと見え始めているが、ホールなど低層部の外装にはレンガを使用している。遠くからでは分かりづらいが、横54cm・縦13.5cm・奥行き8cmという大きなもの。このビルのために岐阜県で焼かれた特注品だ。「わざと凹凸を付けて積むことで、表情を出しているんです。きれいに並べるより手間がかかるんですが」と岡橋さん。約10kgのレンガは、一つ一つ職人の手によって積み上げられている。

超高層タワーと無柱ホールを両立、とにかく巨大なトラス。

斜めに走るトラスを使うことで、タワー中心部の重さは下に伝わず外側の「大臣柱」(下写真)というこれまた巨大な柱へと流される。大臣柱はホールの壁に接しており、四方にそれぞれ4本ずつ。荷重の方向を切り替えるジャンクションのような働きをしているのだ。1本のブレース(斜め柱)が支えられる重さは約3,000トンで、これは東京タワーの全重量に匹敵。一つの部材があまりに巨大で重いため中之島の橋を渡れず、細かいパーツに分けて運び、現場で溶接を行った。



名ホールの歴史を再び紡ぐために、設計・設備にも細心の注意が。10分の1スケールの模型室を造り、音の反響の仕方などのデータを検証し、実際のホールに役立てる。

これだけの規模の工事になると、多くの会社から1日1,000人ももの作業

を実施するのが、ホールとタワーの間にあるメガトラスだ。とにかく巨大な梁と柱だと思ってもらえば良い。これによりタワー中心部分の荷重がホール部分に伝わることなく、外側の柱へとうまく流れるようにしているのだ。

ホールの工事にも困難があった。今回採用している中間層免震という構造の精度を確実にするため、まずホールの天井部分にフタをするような手順が採られた。一般的なホール建設では、内部資材は屋根部分から取り込める。しかし、天井にはフタがされ、おまけにタワーがのっている。結局、資材の荷上げ用の大型クレーンをホール内部に設置し、舞台の奈落の下から材料を持ち上げる工法を採用。つまり、ホール内部の工事はタワー部分の建設と同時に進められていたのだ。

工事期間限定につき。

ケーキの箱の上に、2リットルのペットボトルを置いてしまうようなことは誰もしない。だが、日本の建設技術がそんな無茶を可能にした。ダイナミックな鉄骨構造は竣工後のデザインにも活かされているが、この迫力の力強さは工事中ならではの醍醐味。

景観づくりへの意志。

中之島のビルの多くがグレーの石張りや無難に仕上げるどころ、あえてレンガを採用した点にも注目。これはダイビル本館と一緒に、未来の中之島の風景をつくっていく意思表示か。先代のビルは大阪を代表する名建築だった。新しいタワーはそれを超えられるか？

員が集まる。コミュニケーションをはかり、作業所としての一体感をつくらなければ到底成功しない。「建築業界は昔のような花形産業ではありません。ここで働いた人、後に続く若い人にも素晴らしい仕事を伝え、この仕事をやっていて良かったと思ってもらいたい」とは作業所長の山本啓介さん。新しい建物ばかりではなく、その建築のプロセスや人の思いまで大事にするのが中之島流の現場なのだ。

解説の高岡さん!



空気をうまく利用する 技術も導入。

高層階の窓サッシの一部には手動の換気口がある。レバーを引いて開けると、気持ちの良い新鮮外気が入ってくる。中間期の夜間などにはちょうど良い。また西面には、外装ガラスの内側にもう一枚ガラスを設けることで、エアフロー層（空気が流れるスペース）を形成している。日射によって暖められた空気が上に流れ、熱を逃がすことで、夏場のエアコンの負担を抑え、エネルギー消費を減らすことができる。

空
気



※写真は中之島ダイビルのもので



暖めるのも冷やすのも、 川の水で。

以前にも本誌で紹介したが、ダイビル本館、中之島フェスティバルタワー共に、「地域冷暖房」という熱供給システムを採用している。中之島を流れる川の水は、冬は気温よりも暖かく、夏は冷たい。この温度差を利用して川の水を熱源水（冷却水）として利用することで低炭素化を図っている。また、大気への排熱を行わないため、ヒートアイランド現象を抑制する効果がある。地域冷暖房自体は全国でも数多く見られるが、堂島川から取水し、土佐堀川へ排水するという2つの川を使う例は無い。ちなみに、取水口は田養橋と渡辺橋のたもとにある。



再利用可能な状態にしました。つまり、ほとんど手作業なのである。取り外されたレンガは十数万個に及び、ダイビル本館の外装レンガの約8割はそのレンガを再利用する予定

だ。焦げ茶色の渋いあの外観が、再び中之島で見られると思うと実に待ち遠しいではないか。それでいて、高層階でも自然外気の取り入れが可能だったり、西側にはエアフローシステムを採用して空調への負荷を抑えるなど、最先端オフィスビルの要素もしっかりと備えている。「創業の地でもある中之島ですし、やはり特別な思いがあります」という言葉にも、思い入れが詰まっている。

あの渋レンガが再登場！ 「エコ」の視点も。

再利用予定の旧ビルのレンガ。ご覧の通り、1つずつ丁寧に分解されており、作業には数ヶ月かかった。また1階部分の北側壁面の装飾彫刻も復元されるそう。こうした趣向は長く愛されてきた建築の歴史を継承すると同時に、建設現場における廃材を減らすエコの観点からのものでもある。現代では建設現場にもエコは欠かせないのだ。

解説の
高岡さん！



並々ならぬ意気込み。

旧ダイビルはタイルだと思っていた人が多いと思うが、実はレンガ。貴重な素材をはずす作業は、気の遠くなるような手間暇を要しただろう。タイルと違い重くて厚みがあり、再利用するのも大変。これは決してポーズではできない。もっとアピールしたいと思う。

新しさと歴史の追求。

ダイビル本館

●2013年2月竣工予定

<http://www.daibiru.co.jp/project/nakanoshima.html>

ダイビルは島民にとって特別な建物だ。大正14年（1925）竣工、客船を模した偉容は今も私たちの記憶に新しいし、何より月刊島民プレスがあったのもこのビルの1階だった。そのダイビルが、地上22階・高さ108mを誇るタワーとして新たに生まれ変わろうとしている。

注目したいのは、着工前から話題になっていた旧ビル外観の復元だ。同社技術部にその方法を聞いて驚いた。「レンガを一つずつ剥がし、洗いをかけ、再利用可能な状態にしました。つまり、ほとんど手作業なのである。取り外されたレンガは十数万個に及び、ダイビル本館の外装レンガの約8割はそのレンガを再利用する予定



◎ダイビル イベント情報！

建設中のダイビル本館の東隣、中之島ダイビルにて「ほくほくクリスマス」が開催。12月2日（金）にはオール300円の立ち呑み屋台（5:00PM～9:00PM）、3日（土）には野菜や果物、ジャムなどが並ぶマルシェ（11:00AM～5:00PM）が登場する。また12月9日（金）には、A Hundred Birdsが出演するクリスマスライブを開催。詳細はこちらから。 <http://www.daibiru.co.jp/>

黒地にバラの花、そして『「住む堂島」始まる。』のメッセージ。こんな仮囲いが中之島～堂島界隈で話題となっている。キタの中心、堂島に現れたこの現場は、「堂島 ザ・レジデンス マークタワー」。地上39階建ての超高層タワーマンションだ。どんな建築なのか、設計や構造の担当者らが集まる物件勉強会を訪ねてみた。



防震と制震のハイブリッド。

今回の設計は堂島にオフィスを構える浅井謙建築研究所、施工は大林組。勉強会ではまず、大林組の担当者による構造についての説明が行われた。

このマンションでは「免震」と「制震」の装置を組み合わせたハイブリッドな構造が採用されている。大まかに言えば、免震とは地面の揺れが躯体に伝わらないようにすること。天然ゴム系積層ゴム・弾性すべり支承・直動転がり支承・減衰こま…聞き慣れない装置の名前と、その機能の説明が繰り返される様子はまるで物理学の授業を聞いているかのよう。

加えて、制震は建物の揺れを早くしずめようとするもの。特殊なゴムを使った制震装置を階と階の間に設置することによって、細長くスタイリッシュなデザインを保ちながら制震の効果を得

完成後の様子を表した模型もマンションサロンに設置される予定。スマートなデザインが人目を引く。堂島の新たなシンボルとなるか。



2013年、堂島に登場する 超高層タワーマンションの 勉強会を訪ねる。

取材／文／大迫 力(本誌)

られる。これによりタワーマンション特有の風揺れなどにも対応できることとなった。時節柄、建築物の構造は最も気になるところ。身ぶり手ぶりや擬音語も総動員して、分かりやすく伝えようとする姿が印象的だった。

土地の歴史をデザインに反映。

続いて、浅井謙建築研究所から設計コンセプトやデザインについての説明。コンセプトづくりのヒントになったのは、堂島という土地の持つ歴史だった。古代、聖徳太子が四天王寺を創建する際の材木を運んだ船が難破した時、この場所に流れ着いてお堂を建設したという堂島の地名の由来から説き起こし、堂島新地～米市場、そして新聞社が建ち並んだ近代へと話は続いた。

そんな地層のように歴史が連なるイメージが、デザインにも反映される。エントランス周辺や敷地前の遊歩道には花崗岩を配し、自然素材の表情を活かした重厚な雰囲気、堂島の持つ歴史を強調する。また、エントランスの通路は水盤で囲むなど、これも川に囲まれた街であることがヒントになった。ゲート付近には木が植えられ、隣接の立体駐車場は20mほど壁面緑化されるそう、これも現在の堂島の風景を思えば新鮮なものとなる

だろう。最後に「事務所のすぐ目の前の現場ですから、気合が入ります」と地元への愛着を強調した設計担当者。いよいよこれから工事が本格化する。

堂島 ザ・レジデンス マークタワー

住所は大阪市北区堂島2-32-12、もともとは堂島小学校（卒業生には故・森繁久彌も！）だった場所に建設。2013年11月から入居開始予定。販売は2011年12月からの予定。精密なジオラマやシアターも完備されたマンションサロン（中央区平野町4-4）が来年1月オープン予定。問い合わせ ☎0120-004-269（販売準備室／10:00AM～6:00PM、水曜休）



1870

高麗橋



高麗橋 江戸時代を通じて大阪の玄関口として重視され、明治3年（1870）にイギリスから輸入された材料で大阪初の鉄橋に架け替えられた歴史ある橋。現在は昭和4年（1929）築の鉄筋コンクリート造の橋が架かる。



ぼむ企画の

あの「名工事」をふり返る！

思えば中之島の歴史は「工事」の連続だった。これまでに中之島で行われた数々の工事の中から、エポックメイキングと呼べるもの、難工事をおして成功させたものなど、歴史に残る「名工事」を、月刊島民でおなじみ、ぼむ企画が厳選。

写真提供／財都市工事情報センター 京阪電車

み江 中之島には近代の建物がけっこう残っています。でもそれがどんな工事がなされていたか、というのはなかなかわからないですね。その時代を体験しないと。

桂 では中之島がガラリと姿を変えた近代のすごい工事について、その関係者になったかのようなつもりで語ってくださいませんか？

み江 妄想ならまかせてください。

●明治、大正
キーワードは「強さ」。

桂 ハイ、では明治維新、近代化の幕開けがやってきました。

み江 川が氾濫して、橋が流されてお困りのようですね。西洋由来の鉄の橋を架ければ洪水にも耐えますよ。

桂 誰になったんですか？

み江 失礼いたしました。大阪活版所の本木昌造と申します。

桂 日本初の鉄橋「くろがね橋」を長崎につくった本木さんですか。で、大阪にも？

み江 幕末の洪水で流された高麗橋をつくってほしいと、府知事の後藤象二郎さんから言われてまして。今回は大規模になるのでイギリスから材料を輸入します。橋面の舗装はアスファルトで橋脚の杭はスクリューパイル。まさにこれが最新鋭ですよ。

桂 高麗橋を鉄で……でも、お高いんでしょ？

み江 それがたったの1万5500両！

桂 よくわかりませんが、それってけっこう高いのでは？

み江 へへへ。実は結局お金のこと、後でイギリスと揉めました。

桂 まあでも架設された明治3年（1870）から5、6年の間に大阪市内に5本の鉄橋ができ、さらに明治18年（1885）の大洪水の後にも天満橋、天神橋、肥後橋、渡辺橋……シマの橋も次々と鉄橋になったのだから、本木さん



1915

難波橋

難波橋 橋脚と中之島の部分のアーチは鉄筋コンクリート造で、大正4年（1915）の新築当時の構造体。3年がかりの補修工事を経て昭和50年（1975）、鉄骨アーチの架け替えなどが行われ、照明灯や欄干を復元。





1931 大阪城



大阪城 昭和6年(1931)に完成。SRC造5層8階建て。失われた天守閣を復興させる「復興天守」の先駆け。關一市長の提案から復興が決まり、大阪城公園整備事業の一部として、市民から寄付金を募って実施した。



●昭和初期 「都市計画」とインフラ。

と後藤さんは先見の明があったんですね。

み江 いや時代はコンクリートじゃ。

桂 こんどは誰? というか、いつ?

み江 難波橋のライオンじゃ。ちなみに北を向いて左側、阿吽の卍のほうだから覚えておけ。

桂 ということは大正時代?

み江 そうじゃ。鉄筋コンクリート造という構法の誕生は19世紀後半で、橋に使われるようになったのは20世紀に入ってから。だから鉄骨造と鉄筋コンクリート造を組み合わせた難波橋は、当時超最新鋭の橋じゃ。

桂 難波橋の上には市電を通す計画があったから、橋も頑丈にならないといけなかったわけですね。

み江 大事なのは「シテイプランニング」です。桂 そのセリフは第7代大阪市長の關一さんにまちがない……。

み江 大都市では交通機関の発達が急務です。市電だけでは足りません。地下鉄や橋も街路を

ともに整備しなくては。

桂 關さんはいろんなインフラを整備したけど、中心は御堂筋でしたね。機能はもちろん、街のシンボルにしようとしていらっ

しゃいました。

み江 まさにそのとおりです。大正時代に計画し、地下鉄は御堂筋線の第一期工事が昭和2年(1927)竣工。梅田―心斎橋間の開通が昭和8年(1933)。大仕事でした。

桂 「大ビルデングは其の儘に生じて、木造の小家屋はキレイサツパリに取り除かれた。而して其所に幅員24間の大道が現はれた」と雑誌『王木建築工事画報』に評された一大事業ですね。

み江 とりわけ難しかったのが、土地の確保です。そこで御堂筋ができることで沿道地の権者がどれだけ利益が上がるか計算し、その額によって税金を徴収する、受益者負担制度という方式を使い、立ち退きと財源確保を進めました。桂 地下鉄の工事では、世界でも例のない長さ20mの鋼矢板を打ち込んで土留めました。



1927 御堂筋 1933 大阪市営地下鉄

御堂筋・大阪市営地下鉄 私鉄ターミナルを結ぶ大阪の大動脈として誕生。梅田からなんばまで約4kmを直線で貫く。地下鉄や橋も建設し、淀屋橋・大江橋の竣工は昭和10年(1935)。梅田―心斎橋間の地下鉄開通は昭和8年(1933)。





阪神高速 中之島S字カーブ
阪神高速11号池田線の土佐堀川上空のカーブ。中之島側で朝日新聞ビル（1968年竣工）に吸い込まれる。建物上にトンネルを載せ、道路と一体化。敷地に限りある都心部ならではのハイブリッド構造。

1965

阪神高速 中之島S字カーブ



●高度経済成長期、現代 工事現場の救世主あらわる。

桂 さて高度経済成長期の話にうつります。

み江 やはり最大のトピックは中之島上空を華

桂 「高さ二五尺のエレベーターは、我邦建築界空前のもの」と評されたとか。
桂 まだタワークレーンなんてない時代。鉄骨工事は鉄骨橋梁請負を専門とする会社、蔭山組が行ったそうです。
み江 へえ、ということは橋で培った技術が城に応用された可能性もある、ということでしょうか。面白いなあ。

み江 軟弱地盤の地下工事は大変です。地下鉄工事の鋼矢板を打ち込む騒音がひどくて「受損金が欲しいくらいだ」なんてことも言われました。
桂 ところで、この頃は大阪城の新しい天守閣もできましたね。太閤はん。
み江 そんな無茶ぶりを……キアラ設定がしんどくなったので元に戻っていいですか？
桂 スミマセン、お疲れ様です。大阪城は鉄骨鉄筋コンクリート造8階建てという、当時としてはかなり高層の建物ですよ。

み江 工事用エレベーターが「高さ二五尺のエレベーターは、我邦建築界空前のもの」と評されたとか。
桂 まだタワークレーンなんてない時代。鉄骨工事は鉄骨橋梁請負を専門とする会社、蔭山組が行ったそうです。
み江 へえ、ということは橋で培った技術が城に応用された可能性もある、ということでしょうか。面白いなあ。
桂 さて高度経済成長期の話にうつります。
み江 やはり最大のトピックは中之島上空を華麗に舞う阪神高速でしょうか。
桂 特にS字を描きながら肥後橋上空・土佐堀川を渡り、朝日新聞ビルを貫通して堂島川へとつづく、通称「S字カーブ」は最大のポイントでしょう。
み江 なんとといっても朝日新聞ビルで、建物と高速道路が一体化しているところが面白い。
桂 工事には当時まだ珍しかった大型トラッククレーンも採用したそうです。
み江 おお、クレーン車の登場。ようやくですね。意外と新しいんだ。
桂 そして現代。京阪電車中之島線です。
み江 飛ばしましたね。
桂 今やシールド工法で、地下も昔に比べるとかなりスムーズな工事が可能です。
み江 しかしこの時代になると、課題はむしろ道路や線路など先行する工事を避けること。
桂 工事中に、御堂筋線の工事につかった鋼矢板の破片が発掘されたりしたそうです。
み江 まさにシマの工事の歴史を裏付けるエピソード。地層のように工事の歴史が蓄積されているんですね。



2008

京阪電車中之島線

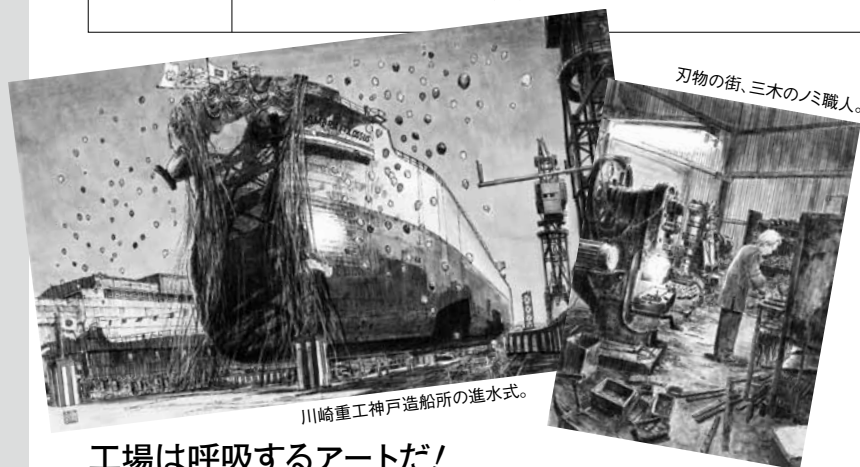


京阪電車中之島線 2008年開業。約2.9kmの地下路線。最も深い駅は地下35mのなにわ橋駅。先行するインフラを避けるため軌道が深い。内装に木を使った中之島駅など、駅ごとの使用素材に個性がある。写真はなにわ橋駅の入口。

2012年
1月講座

「工場は生きている ～大阪のものづくりを考える～」

講師／加藤正文（神戸新聞記者） 網本武雄（イラストレーター／地域環境計画研究所）



**工場は呼吸するアートだ！
120の工場を歩き、現場の創意と熱気を綴ってきた
コンビが「ものづくり」の夢を語るトークショー。**

テレビ生産の縮小や撤退、お家芸の自動車は売れず、携帯電話はガラパゴス化…。製造業の苦境を伝えるニュースが続いている。その一方で「工場萌え」ブームなど、工業のある風景を見直す動きもある。日本の、大阪のものづくりは、これからどこへ行くのだろうか。

新年第1回目のナカノシマ大学は、大阪から日本のこれからを占うような好企画。およそ10年で120カ所、大小あらゆる分野の工場を探訪し、このほど新刊『工

場は生きている』を出版、現場の創意と熱気を文章と絵で綴ってきた経済記者とイラストレーターのコンビが、まだまだ死なないものづくりの力強さと可能性を語る。現在の中之島には大きな工場こそないが、その昔、銅が造られていた歴史があり、西へ行けば、あの松下幸之助が町工場を始めた野田の工場街もある。ビルの谷間を歩いてみれば、職人の仕事も息づいていることに気づく。

網本武雄さんは、ご存じ『月刊島民』

加藤正文（かとう・まさふみ）

神戸新聞経済部デスク。入社当初から記者として神戸、大阪を中心とする関西のものづくりの現場取材。そこで働く人たちの生き生きとした物語は、エネルギー誌で読むと元気になる。



網本武雄（つなもと・たけお）

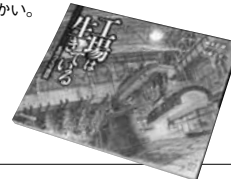
イラストレーター、地域環境計画研究所。月刊島民プレスのメンバーでもあり、中之島周辺の職人を訪ねることもしばしば。また雑誌『大阪人』の連載「大阪名物製造工程」でもイラストを担当。



編集スタッフであり、人気連載「橋の話をしよう！」では精密なイラストを担当。会場では工場を描いた原画を展示、2人の共著『工場は生きている』も販売し、ものが生まれる現場の魅力をありありと伝えます。

『工場は生きている』（かもがわ出版・2,100円）

加藤・網本のコンビによる神戸新聞の人気連載をまとめたもの。造船・鉄鋼から灘の酒、そば、砕石場など一口に工場と言ってもさまざまな。網本さんお得意の細密なタッチがダイナミックな光景をリアルに再現。そこで働く人々の物語も、じんわりとあたたかい。



工場は生きている ～大阪のものづくりを考える～

講師／加藤正文 網本武雄

日時／2012年1月26日（木） 7:00PM～（開場6:30PM）

会場／ULTRA 2nd COFFEE AND DINNER

受講料／1,500円（ワンドリンク付き）

定員／50名

主催／ナカノシマ大学事務局

協力／大阪21世紀協会

お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添え下さい。

〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
「ナカノシマ大学1月講座」受付係 FAX.06-4799-1341

※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。

※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。

ナカノシマ大学の最新情報は

<http://www.nakanoshima-univ.com>

ケータイからは
こちら！→



お問い合わせ ☎06-4799-1340
（ナカノシマ大学事務局）



2011年10月27日(木)

「中之島から旅に出よう！」

◎中之島デザインミュージアム de sign de

対談／近藤雄生(作家・ライター) 竹岡寛文(デザイナー)

今回の講師は、熊野詣や三十石船など「旅」の発着点となった中之島の歴史を紹介した本誌7月号にご登場いただいた2人の「旅人」。旅をしながらレポートを書き、その資金でまた旅を続けるという、遊牧ライターの異名を持つ近藤雄生さんと、東京～京都をつなぐ中山道、京都～大阪間の京街道、合わせて約600kmの距離を歩いて旅した、菅笠がとっても似合う街道歩きの人・竹岡寛文さんである。

落語の「めくり」風の紙に書かれたテーマに沿ってトークは進行。最初のテ-



竹岡寛文さんはiPhoneのGPS機能やtwitterを駆使、時代によって旅の方法も変化する点を指摘。

マは、2人の自己紹介がてらに「私の旅、ここがしんどかった」である。近藤さんはミシマ社からの新刊『中国でお尻を手術。一遊牧夫婦、アジアに行く』を引き合いに、中国でお尻を手術することになったいきさつ、恐るべきトイレ事情など、情けなくも赤裸々なエピソードの数々に、会場は一気に笑いに包まれた。旅の恥はかきすて、ならぬ書きすてである。

対して竹岡さんは、菅笠姿を不審がって目も合わせてくれない東京・日本橋のエピソードからスタート。「最初は撮るのが大変だった」という100m歩くごとに目線撮りした道中の写真を高速で連続再生。中之島にいながら、時速約1000キロのスピードで進む旧街道の旅を追体験させてもらった。

旅の一番の思い出は、やはり途中で出会った人のようだ。「これから旅に出たい人へ」のお題に近藤さんは、人の善意にすがって一銭も宿泊代を使わずに長年旅を続ける「ウシヤマさん」なる人物を紹介。いきなりドアをノックして宿を請うという手法に、会場に衝撃と笑いが渦巻く。「今はカウチサーフィンといって、家を宿泊施設代わりに提供し合う旅人同志のネットワークが世界各地にある。旅に出さえすれば、どうにかなるんです」と旅に憧れる受講者を励ました。

竹岡さんも、旅の途中で出会ったおせ



世界40カ国以上を旅した近藤雄生さん。今の奥様に猛アタックした青春時代の恋のエピソードもご披露。



アフターパーティーにて、本の購入者にサインをする近藤さん。新刊はなんと20冊が完売!

っかいで親切な人たちとの交流が未だに続いているという。そんな旅の中で得られたものの一つが体感だ。「だんだんと地図の縮尺と体感が合ってくると、面白いことにほぼ迷わず地図どおり歩けるんです」。日本人の身体感覚を呼び覚ますような街道歩きの醍醐味を語った。

まさに旅するように旧街道から世界地図を縦横無尽に駆け巡った対談。日本と世界を股にかけた旅人たちの中之島での共演は、旅が人に与える前向きな変化、世界の広がりを受講者たちに印象づけた。

対談後はナカノシマ大学開校2周年を記念して、アフターパーティーが開催された。初めての会場となったグッドデザイン空間 [中之島デザインミュージアム] 内のカフェにて、講師の2人をはじめ、ナカノシマ大学事務局メンバーと受講生がビールやワインを片手におしゃべり。受講生同士の交流も深まったようだ。出張販売にお越しいただいたミシマ社のブースも大盛況。少し早い忘年会のような盛り上がりを見せた。



左／堂島川を窓の外に眺め、テーマにぴったりだった [中之島デザインミュージアム]。右／カフェで行われたパーティーの様子。大盛況だった。



祝2周年!
アフター・パーティー
も大盛況。

21世紀の懷徳堂プロジェクト

12月の時間割

ナカノシマ大学ほか、
中之島周辺の「学びの場」の時間割をご紹介します。

◎21世紀の懷徳堂プロジェクトとは…

ナカノシマ大学が、(財)大阪21世紀協会、大阪大学、大阪市と連携しながら、
大阪の街に「市民が学ぶための場所」を広げていくためのムーブメントです。



大阪カルチャークラスター!!

大阪カルチャークラスター!! (OCC!!) では、大阪にあるカフェやギャラリーなどで独自に企画・運営を行っている
講座・ワークショップを一堂に集め、紹介していきます。

※大阪カルチャークラスター!! (OCC!!) では、参加店舗を募集中です。お問い合わせはsingles@do.ai (common café) まで。

1	木	8:00AM~ 10:00AM~ 2:00PM~ 4:00PM~	「中之島の水辺で水上さんぽ」奥谷 崇(水辺ガイド) 参加費:3,000円(レンタル一式+保険+協力金) ☆毎日開催☆ボードに立ってパドルを漕いで進む水上さんぽ。バランス感覚が身に付きエクササイズにもオススメ!(約1時間)	会場 D
3・4	土 日	1:00PM~	「nicohohoの絵本みtainなクリスマス アイシングクッキーツリーを作ろう」nicohoho(アイシングクッキー・アクセサリ作家) 参加費:5,250円(材料費込) マリメッコのツリー型のクッキーに、てっぺんには切ぽんをつけてかわいいツリーを作りましょう。各日5名様まで	会場 G
5	月	1:30PM~ 3:00PM	「川村龍一の学校で習わなかった本屋の授業」参加料:無料 アメリカ村を元気にしよう! 大人も立ち寄れるような街にしよう!と、ゲストと楽しいトークを繰り広げます。	会場 J
6	火	7:30PM~ 9:30PM	「石原正一のヨミすぎ!〜古今東西名作朗読会〜」石原正一(役者・演出家) 受講料:1,500円 古今東西の名作を参加者全員で読みまくる夜。具体的に配役に分けて、名作文章の世界を楽しんでいただきます。	会場 A
10	土	11:00AM~ 1:30PM	「英米文学のおいしい時間:クリスマスの歌」武田雅子(英米文学)・中東ゆうこ(料理担当) 料金:4,500円 (テキスト+クリスマスランチ付き) クリスマスの名曲を原詩で楽しめましょう。中学生英語で大丈夫! ランチもクリスマス〜♪	会場 H
10	土	1:00PM~ 4:00PM	「ツバメブローチのワークショップ」annas 川畑杏奈(刺しゅう作家) 参加費:3,990円 好きな色でツバメの刺しゅうをしてブローチに仕立てます。初心者の方も歓迎です。おやつ付き。5名様まで。	会場 G
10	土	2:00PM~ 4:00PM	「健康講座〜自分のカラダを自分で治す・冷え対策」合田光男(国際東洋医療専任講師) 受講料:2,000円 身体の不調を手技、つば療法、金粒療法、東洋医学経筋治療により自分の手で整える方法を学びます。	会場 E
11・14	日 水	11日/11:00AM~ 2:00PM 14日/7:00PM~ 9:30PM	「ボーボー屋料理教室『ホームパーティー・おもてなし料理』」中東ゆうこ(ボーボー屋店主) 料金:3,800円 クリスマス・お正月にと大活躍のおもてなし料理。ホームパーティーの設定で、作りながら、食べながら〜♪	会場 H
14	水	7:00PM~	「聴いて読む&洋書絵本を読む」山崎一郎(翻訳家) 参加費:1,500円(お茶付き) 『Of Thee I Sing: A Letter to my Daughters(娘たちへの手紙)』(バラク・オバマ大統領)を読む予定です。	会場 I
15	木	7:00PM~ 8:30PM	「落語講座」桂蝶六(落語家) 受講料:2,000円(テキストつき) 落語がもっと身近になる初心者のための落語講座。発声や心意気をプロに学びます。	会場 E
17	土	2:00PM~ 4:00PM	「工作教室Coppa!! ー葉っぱでアート!」ムラバヤシケンジ(アーティスト) 料金:1,600円 木の実や葉っぱ、枝などを使って、色々工作を楽しみましょう!	会場 C
18	日	1:00PM~ 2:30PM	「中級者のウクレレ講座・綺麗な音を奏でるために」松井朝敬(音楽家) 受講料:4,000円(テキスト付き) ウクレレの基本ストロークを練習します。	会場 E
18	日	A/1:00PM~ 2:30PM B/3:00PM~ 4:30PM	「紅茶教室」Yuriko(ティーコーディネーター) 参加料:各2,000円(お菓子作家HIKEの焼き菓子付き) A:世界三大紅茶(初心者向)B:クリスマスティー(アレンジ) 基本の淹れ方レクチャー&試飲をします。	会場 B
18	日	2:00PM~ 3:30PM	「かおかおちゃんを作ろう!」hand made felt soi(フェルト作家) 参加費:1,890円(材料費込み) フェルトボールにニードルを使ってチクチク羊毛を刺してオリジナルのかおかおちゃんを作りましょう。6名様まで。	会場 G
18	日	4:00PM~ 7:00PM	「第16回 Suite Night Classic 希少疾患向け新薬開発について学ぶ講座と難病の友のためのチャリティコンサート」 参加料:1,500円 希少疾患・遠位型(えんいがた)ミオパチーの話と有志による演奏会。収益金から患者会へ寄付をし、新薬開発に協力。	会場 F
18・28	日 水	18日/1:00PM~ 3:00PM 28日/7:00PM~ 9:00PM	「お正月の苔玉をつくりましょう」松本佳子(三日月豆・店主) 参加料:3,800円(材料+軽食+お茶) お正月らしい植物・葉牡丹を使って季節の苔玉作り。育て方もしっかりお伝えいたします♪	会場 H

A common café ☎06-6371-1800

B 雑貨屋Biscuit café ☎090-9254-1223

C morrison(studio) ☎080-3113-4816

D 若松の浜 ※お問合せ:アクアスタジオ ☎06-6125-0550

E フレイムハウス ☎06-6226-0107

F ULTRA 2nd COFFEE AND DINNER ☎06-6949-8804

G タビエスタイル ☎06-4963-7450

H ボーボー屋 ☎06-6531-7827

I 貸本喫茶ちようちよぽこ http://www.geocities.co.jp/chochobocko/

J スタンダードブックストア ☎06-6484-2239



レクチャー&対話プログラム「ラボカフェ」

読書・哲学・鉄道など、毎月リアルタイムなテーマでカフェ風ワークショップを行っている、
京阪電車中之島線なにわ橋駅地下1階の「アートエリアB1」。12月のラインアップはこんな感じ。

7	水	7:00PM～ 9:00PM	中之島哲学コレッジ／哲学カフェ「年をとるとできることとは？」 定員:50名程度 難しい本を読むなど、成長・学習する中でできるようになること。飲酒や結婚など、ある年齢に達するとできること。あるいは加齢とともに困難になること。これらは「年をとること」とどう関わるのか。対話を通して一緒に考えてみましょう。
14	水	7:00PM～ 9:00PM	中之島哲学コレッジ／哲学セミナー「超高齢社会—どっちつかずの身体たちが形づくる社会」 定員:50名程度 超高齢社会を迎えた日本において、福祉社会学の視点から「老い衰えゆく身体」を見つめ続ける立命館大学の田田城介さんをゲストにお招きして、介護を含む社会の課題について話し合います。
16	金	6:30PM～ 8:00PM	研究ときめき＊カフェ「透明な紙で、あなたなら何を作りますか？」 定員:40名程度 紀元前2000年頃にエジプトでパピルスが発明され、西暦200年頃に中国で紙が作られました。そして2008年、日本で紙が「透明」に。透明な紙の作り方を発明者本人が解説。用途展開について意見交換します。
20	火	7:00PM～ 9:00PM	鉄道カフェ「水戸岡デザインを考える」 定員:30名程度 民営化後、奇抜な列車が次々と誕生しているJR九州。その多くはデザイナーの水戸岡鋭治氏が担当。水戸岡氏の鉄道車両デザインについて、話し合いたいと思います。「水戸岡さんって誰？」という方も大歓迎!
21	水	7:00PM～ 9:00PM	シアターカフェ「吹田市民劇場 メシアター×大阪大学の取組み」 定員:30名程度 平田オリザ作・連行演出による演劇作品を、大阪大学の学生と、吹田市民を中心に一般オーディションで集った35名の出演者にて2012年2月に吹田メシアターにて上演。これまでの吹田メシアターが取り組んできた市民参加舞台公演の紹介から、現在進行中の練習の様子など、演出家、出演者とざくばらんにお話したいと思います。
22	木	7:00PM～ 9:00PM	マンガカフェ14「2011年のマンガ界をふり返るぞ!」 定員:50名 昨年に引き続き、京都国際マンガミュージアムからゲストをお呼びして、2011年のマンガ界を縦横に語り尽くします。今年は特に震災・原発・台風など、大規模災害とマンガの関わりについても話題となるでしょう。「今年一番のマンガ」(2011年1月1日以降発売の単行本作品)をご持参ください。

会場／アートエリアB1 参加費／全て無料 当日先着順・入退場自由 問い合わせ／[カフェの内容について]大阪大学コミュニケーションデザイン・センター(CSCD) ☎06-6850-6632 [場所などについて]アートエリアB1 ☎06-6226-4006 ※内容は予告なく変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。



大阪大学
21世紀
懐徳堂

大阪大学21世紀懐徳堂

●第1回 大阪大学・大阪音楽大学ジョイント企画

18	日	2:00PM～ 3:30PM	「待兼山クリスマスコンサート2011」 「地域に生き世界に伸びる」をモットーとする総合大学と、「時代を革新する音楽文化の担い手」を志す芸術系単科大学が、それぞれの持ち味をいかし、地域の文化振興に貢献するためのジョイント企画。出演は、大阪音楽大学クラリネットオーケストラ、Moscow Mule(モスコミュール／大阪大学アカペラサークルinspiritual voices所属)。
-----------	---	-------------------	---

会場／大阪大学会館 講堂(大阪大学豊中キャンパス・旧イ号館) 定員／300名(事前申込要・先着順) 問い合わせ／大阪大学21世紀懐徳堂 ☎06-6850-6443 申し込み方法／いずれも名前・フリガナ・お住まいの市町・年代(又は学年)を明記し、件名(タイトル)を「阪大音大」とすること。[メール]handai-ondai@21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp [FAX]06-6850-6449(大阪大学21世紀懐徳堂) [往復はがき]往信文面にお名前・フリガナ・年代(又は学年)・電話番号を、返信宛名面に住所・お名前を明記すること 〒560-0043 豊中市待兼山町1-13 大阪大学会館内 大阪大学21世紀懐徳堂 阪大音大待兼山クリスマスコンサート係 ※申し込み受付後、一週間以内に受付番号を返信。当日、受付番号をご提示ください。当日は先着順で入場。※未就学児の来場はご遠慮ください。

●Handai-Asahi 中之島塾 大阪大学が朝日カルチャーセンターと共催しているセミナーです。

2	金	1:30PM～ 3:00PM	「おもしろ日本語学～外来語の世界」小矢野哲夫(大阪大学大学院言語文化研究科教授) 受講料:1,575円 厄介者のように扱われることもある外来語ですが、暮らしの中でなくてはならないものや、外来語と意識されなくなったものもあります。外来語の起源を訪ねたり、言い換え問題についても触れます。
----------	---	-------------------	--

会場／大阪大学中之島センター インターネット、電話、FAXか、朝日カルチャーセンターの窓口でお申し込みください。http://www.asahiculture.com/nakanoshima/index.html ☎06-6222-5224 FAX.06-6222-5221 問い合わせ／朝日カルチャーセンター(中之島) ☎06-6222-5224

●大阪大学×大阪ガス「アカデミクッキング」 「専門分野の講義」&「料理実習」で、学問するココロ。が実践的に身につきます。

1/20	金	6:30PM～ 9:00PM	「香草・香辛料入門～ベトナム編」内野 花(大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任講師) 講習費:1,500円 定員/24名 大人気のベトナム料理に欠かせない香辛料やハーブを中心にレクチャーします。 課題料理/鶏肉のフォー、魚のクレイボット煮、茹でキャベツ魚醤添え、ケムソイ
-------------	---	-------------------	---

会場／大阪ガスクッキングスクール千里 申込受付期間／12月7日(水)～20日(火)(web申込受付は7日(水)0:00AM～、電話受付は13日(火)11:00AM～) 申込多数の場合は抽選の上、当選者へのみ12月21日(水)に案内を発送。4月と同じ講座内容につき、新規受講生を優先。申し込み・問い合わせ／大阪ガスクッキングスクール千里 ☎06-6871-8561 http://www.og-cookingschool.com/



淀屋橋odona アイ・スポット通信



淀屋橋駅直結の複合型商業施設「淀屋橋odona」の2階にある情報発信スペース「アイ・スポット」では、大阪の歴史に関する展示が無料で見られるほか、月刊島民をはじめとするフリーペーパーなど街の情報も集まっています。さらに、毎月さまざまなミニセミナーも開催。会社帰りに、街遊びのついでに、ぜひお立ち寄りください！

シリーズ
連続

●大阪市立大学アイ・スポット講座

2	金	6:30PM～ 8:00PM	「秀吉以前の大坂 ―「石山」本願寺・寺内町の実像―」 仁木 宏(大阪市立大学大学院 文学研究科・教授) 羽柴(豊臣)秀吉が大坂城を築く以前、そこには大坂(石山)本願寺と寺内町がありました。しかし、寺内町の実像は、案外知られていません。寺内町のかたち、法制、住民、交通アクセス、周辺地域との関係などを紹介します。
16	金	6:30PM～ 8:00PM	「巨大津波、その被害と対策の模索」重松 孝昌(大阪市立大学大学院 工学研究科・教授) 水都と呼ばれてきた大阪の歴史は水害との戦いの歴史でもありました。人々と水辺との関わりや水害の歴史を振り返るとともに、東日本大震災による沿岸域の被害実態を脳裏に焼き付けたうえで、その対策を模索します。
19	月	6:30PM～ 8:00PM	「放射能セシウムによる内部被曝～今後どのような食品から検出されるのか～」 平澤 栄次(大阪市立大学大学院 理学研究科・教授) 放射能の数値を示す単位をどうよめばいいのか？ 放射能を含んだ食品を子供が摂取した場合、どの程度なら容認できるのか？ などの疑問にお答えします。また今後どのような食品から放射能が検出されるのか予想します。
22	木	6:30PM～ 8:00PM	「東日本大震災での液状化被害と大阪地域の液状化危険度の予測」 大島昭彦(大阪市立大学大学院 工学研究科・教授) 東日本大震災の影響による液状化の被害状況を紹介します。原因を考察。また大阪地域を250m区画に分け、各区画の地盤性状を実データからモデル化し、東南海・南海地震を想定した液状化危険度を予測した結果を紹介します。

開場6:00PM～ 受講料無料・定員先着30名 ※要事前申込

アイ・スポットまで電話・FAX・メールにて、氏名・電話番号・参加希望講座名をご連絡ください。定員に余裕がある場合は、当日入場も可能です。

毎月開講
3月まで

●大阪大学21世紀懐徳堂 i-spot講座 いもんなものさしシリーズ

6	火	6:30PM～ 8:00PM	「ナイチンゲールの『ものさし』―病と健康についての思想」 大北全俊(大阪大学大学院文学研究科・助教) 定員30名 ナイチンゲールといえば、現在の看護の基礎を築いた天使のような人物として知られています。しかし、彼女が看護に携わったのはほんの数日間。残りの時間、彼女は何をしていたのか？ 大英帝国の「病」と「健康」をめぐる問題に一生をかけて取り組んだ彼女の実践とそれを支えた思想について話します。
---	---	-------------------	--

お申し込みは、講座名・受講者ご本人のお名前・電話番号を、電話かメール、FAXでお知らせ下さい。

アイ・スポットまで電話・FAX・メールにて、氏名・電話番号・参加希望講座名をご連絡ください。定員に余裕がある場合は、当日入場も可能です。

当日OK

会社帰りにふらりとどうぞ！ 申し込み不要の講座もたくさん。

トーク&セミナー	7	水	7:00PM～ 9:00PM	船場大学淀屋橋キャンパス「プロダクトからコミュニティをデザインする」 講師:大倉清教氏(ケブラデザインスタジオ代表) 「日本の伝統産品は『おもてなし』の文化を次の世代に受け継ぐ大切な媒体であり、それに気づき、守らなければならない」とのご本人の考え方をベースに、製品や意匠やスペースのデザインから「人をつなぐ、街をむすぶ」可能性についてお話しいただきます。講義後には、フリートーク&ディスカッションも。
トーク	12	月	7:00PM～ 9:00PM	都市大阪創生研究会presents「港からみえる水都大阪」第1回 住之江区探訪 ナビゲーター:山納洋(大阪ガス) ゲスト:山下儀之(住之江のまち案内ボランティアの会長) 大阪のベイエリアは今でも、過去の港としての面影を色濃く残し、その文脈の上に地域の再活性化をはかる取り組みも行われつつあります。この連続ワークショップでは、大阪の港湾エリア各区について、その歴史的背景や現状に詳しい方にお話をうかがいつつ、各エリアの今後の展望を探っていきます。
トーク	15	木	7:00PM～ 8:45PM	「ファンから見た大阪地下鉄の味わい方」 対談／石本隆一(『大阪の地下鉄』著者)・山口英里華(京都精華大学4年生) 2013年に開業80周年を迎える大阪市営地下鉄。実は世界的に見ても驚くほどのポテンシャルがある。その不思議な面白さを、地下鉄博士・石本さんと、なぜか大阪地下鉄に魅了された女子大生が紹介するトークイベントです。開催中の山口英里華さんのパネル展「くさんと大阪地下鉄ツアー」を見ながら、山口さんや来場者の疑問に石本さんが答えます。
トーク&セミナー	20	火	7:00PM～ 9:00PM	船場大学淀屋橋キャンパス「パンとスイーツから考える地域の魅力」 進行:南山達資(船場大学)・山本優花(SammyPan代表)・SammyPan パン屋・スイーツ店が集積し、一つの産業として成り立つ神戸・阪神エリア。なぜこの地域に店が多い？ 店の特徴は？ 「食」が地域を盛り上げる起爆剤に？ 数々の疑問を皆さんで共有し、解決します。
トーク	21	水	7:00PM～ 9:00PM	御堂筋Talkin' About vol.12「大阪古地図探訪」 ナビゲーター:生駒伸夫(生駒ビルディング)・小川清(平岡珈琲店)・山納洋(大阪ガス) 水の都・大阪のありようは、風景が大きく変貌をとげる以前の街を知ることで、よりくっきりとイメージすることができます。今回のサロンでは、江戸・明治時代の大阪の古地図を眺めながら、かつての大阪と一緒に旅してみよう。

アイ・スポット 大阪市中央区今橋4-1-1 淀屋橋odona2階 TEL&FAX.06-4866-6803 E-MAIL.i-spot@voice.ocn.ne.jp

開館時間／11:00AM～9:00PM(土・日・祝～8:00PM) 年末年始休 地下鉄御堂筋線「淀屋橋」駅10番出口直結 京阪本線「淀屋橋」駅徒歩1分

<http://nakanoshima-univ.com/site/ispot/>

大学4回生の11月、中之島祭（阪大医学部の大学祭）に、渡辺淳一氏が講演に来た。小説『阿寒に果つ』にまつわる話で、私はちょうど北海道旅行を計画していたので聴きに行った。

『阿寒に果つ』は、渡辺氏の高校の同級生で、阿寒湖畔で自殺した天才少女画家をモデルにした作品である。

北海道旅行は、「基礎配属」という実習をサポートして行くことにしていた。これは基礎医学の講座で研究のまねごとをする実習で、放射線基礎に行くと、初回の出席だけで、あとは全部休んでもOKだったため、20日足らずの長期旅行が可能だったのである。

余談ながら、渡辺氏の講演で、私は最後の質疑応答のとき、「小説家は、書くことがなくなりませんか」と訊ねた。渡辺氏は、うっと答えるに詰まり、苦笑しながら「なくなるんです」と答えた。

「小説家はまず自分のことを書き、次に親兄弟のことを書き、それから親戚のことを書いて、友だちのことを書くんです」

その答えは、すでに小説家を志していた私には大いに参考になった。

北海道へは、まず大阪駅から夜行に乗り、日本海側をまわって青森まで行き、青函連絡船で函館に渡った。函館はハイカラな街で、ハリスト正教会や、トラピチヌス修道院、五稜郭、函

館山などを見てまわった。

それから夜行で東室蘭に出て、登別温泉、支笏湖へ行き、苫小牧から襟裳岬へ行った。国鉄（当時）の周遊券を買っていたが、電車の本数が少ないので、ほとんどヒッチハイクで移動した。ヒッチハイクのコツは、できるだけ明るい顔で大きく手を振ることである。親指を立てたりしても、車は止まってくれない。愛想よく手を振って、運転手が何かなと止まったところに駆け寄り、笑顔で頼むと、行き先さえちがわなければ、たいてい乗せてくれる。ときには長距離トラックにもお願いした。トラックの運転手は概して親切で、ときに昼食をおごってくれた

中之島ふらふら青春記⑩ 久坂部 羊 ニッポン一人放浪記Ⅲ 《北海道ヒッチハイク旅》

り、景色のいいところをわざわざ遠まわりしてくれたりした。

帯広から、釧路、根室に行き、野付半島のトドワラ（湿原に白骨のように立ち枯れたトドマツが乱立する自然公園）を訪ねようとしたときは、季節外れでバスが運休しており、湿原に向かう車など1台もなく、あきらめかけていたところに、自衛隊のジープが通った。ダメもとで手を振ると、止まってくれ、「トドワラに行きたいんです」と頼むと、後ろの席に座っていた将軍風のおジサンが「乗せてやれ」と言ってくれた。おジサンはかなり偉い人らしく、運転手の自衛官が「はつ」と敬礼して、私を助手席に



乗せてくれた。おまけに私がトドワラを見物した帰りに、幹線道路まで送り届けてくれた。このときばかりは、心から「兵隊さん、ありがとう」と思った。

8日目に阿寒湖に着き、翌日、雪の阿寒湖周辺を歩いて、神秘の湖、オンネトーへも行った。『阿寒に果つ』の主人公が自殺した旧釧北峠は、残念ながら雪に閉ざされ、行くことができなかった。

その日の午後、摩周湖のほとりに下りられる裏摩周に行こうとしたが、こちらもバスが運休していた。車なら行けるというので、バス会社の人が止めるのも聞かず、レンタカーを借りた。最初は快調だったが、途中から雪道になり、生まれてはじめてタイヤチェーンを巻いて走った。目的の展望台は、かなり急な坂の下にあり、そこまで行かないと湖畔に下りられない。帰りに坂を登れるかどうかわからなかったが、せっかく来たのだから下りることにした。

雪の中を湖畔まで行くと、人っ子一人おらず、黒雲が垂れ込め、早い夕暮れであたりが暗くなってきた。私は水面にちよつと触って、急いで車にもどった。ところが、タイヤがスリップして発進できない。レンタカー会社に行き先を告げていなかったの、もし上がれなかったら行方不明になってしまう。手持ちの食料はアーモンドチョコレート1箱。遭難→餓死→春に死体発見……。悪夢が脳裏をかすめた。

バックで平地までもどり、勢いをつけて登ろうとしたが、傾斜が急になるとタイヤが空転する。何度目かによりやく上りはじめ、タイヤの高速回転とは裏腹に、ゆっくり前に進みだした。止まると最後だと思い、祈るような気持ちで思い切りアクセルをふかして、横滑りで車の尻を振りながら（片側は崖）、かろうじて幹線道路までもどった。登り切ってみると、タイヤチェーンが片方切れて、吹っ飛んでいた。

命からがらレンタカー会社にもどり、チェーンを片方なくしたと言うと、「まあ、わざとなくしたわけじゃない」と許してくれた。高額の弁償を覚悟していたので、地獄で仏に会ったようにうれしかった。

11日目には知床半島に行き、シーズンオフで民宿はすべて休業だったが、1軒のオバサンとしゃべっているうちに仲良くなって、泊めてもらえることになった。そこへ一人旅の女性が来て、彼女も泊まることになった。年齢は20代後半、ぼつちやり型で眼鏡をかけていたが、部屋は私と同じでいいと言うので、驚いた。残念ながら、どう見ても好みのタイプでなかったのだ。丁重にお断りした。

夜は民宿の家族に混じって、鹿肉のすき焼きや筋子をご馳走になり、楽しく過ごした。翌日、宿代を払うとき、バス停で両替するからと女性に言われ、3千円を立て替えた。ところが、バス停へ行くと、彼女はトイレに入っ

出てこない。バスは2時間に1本しかない。どうしようかと思ったが、結局、バスをやりすごすと、女性が出てきて「あーっ」と叫んだ。「お金を返してください」と言うと、はじめから踏み倒すつもりだったらしく、「ないんです」と照れ笑いを見せた。それまでいい人に出会ってばかりだったので、ショックだった。これからどうするつもりですかと訊ねると、ここで働くと言い、「もう千円貸してくれない」と頼まれたが、それは断った。

そのあと、サロマ湖、網走刑務所、旭川、層雲峡などをまわり、稚内から宗谷岬まで行つて、最後に札幌に2泊して、手稲オリンピックでスキーを楽しみ、サッポロビール園でジンギスカンを食べ、薄野のラーメン横町でラーメンを続けて2杯食べた。ひとりでも淋しさはまるで感じず、それどころか、毎日、自由と孤独を味わって楽しんで、幸せだった。

社会人になってからも、放浪への憧れは変わらず、いつかもう一度、北海道を彷徨ってみたいと思っていた。5年前、仕事先を変わる機会に長めの休みを取り、真冬の北海道を2週間、当てもなく旅した。財政破綻寸前の夕張市や、人気の旭山動物園、前回行きそびれた小樽にも行った。もしかして、今度は知床の踏み倒し女のようにではなく、もっとロマンチックな出会いがあるかもと心の準備はしていたが、結局、何も起こらなかった。トホホ。

くさかべよう 1955年生まれ。大阪大学医学部卒業。

麻酔医、外科医、在外公館での医務官としても勤務した後、2003年『廃用身』（幻冬舎文庫）でデビュー。

現代医療への提言と生きること・死ぬことについて考える契機に満ちた作風が人気を呼び『破裂』は10万部を超えるヒットに。

「先月より新しい長編小説の執筆を開始しました。がん難民をテーマにしたシリアスな作品になる予定。

あまり長くないように編集者から釘を刺されています（笑）」

ちよと、隣のビルまで。

取材・文／松本 創(本誌)

第19回

[貸し店舗]@フジカワビル

戦後大阪文化の 記憶を宿す名建築、 入居者募集中。



西側の中2階フロア。文化人たちはサロンで何を話したろうか。



堺筋に面したガラスブロック仕立ての壁。各階を横に貫く白い縁取りの水平連続窓。60年前、斬新な近未来建築として街に現れた村野藤吾作品は今や、とてもいい具合に風景と調和している。ガラス扉を入れば2階までの吹き抜けになっていて、東西に中2階のフロアがある。この1・2階部分に入居してみませんか?と、今回はそういう話だ。

「フジカワ画廊という大きな画商の社屋兼ギャラリーとして建ったビルですが、建設には、野村證券や伊藤忠商事、大日本除虫菊など財界の支えが大きかったそうです」と管理人の河野希代子さん。美術への理解深かった大阪ダンナイズムの結晶なのである。

そんなビルの雰囲気になやまして集まった他階のテナントは、広告代理店、グラフィックデザイン事務所、イタリアンレストランなど。以前は倉庫だった屋上のペントハウスは、緑のテラスを備えた居心地の良さそうな美容室になった。

借り手募集中の1・2階は現在、暫定的に貸し画廊になっている。優雅にねじれた階段が東側の中2階へ伸び、西側へ回れば、かつての社長室。村野がデザインしたソファや執務机が今も残る。サロンとして開放されていた頃には、作家の今東光や新聞記者時代の司馬遼太郎も出入りしていたという。

空間の構造や調度をそのまま活かすなら、ブックカフェや服のショップだろうか。「オフィスでも人の出入りが多いとうれしいですね。たくさんの人にこの雰囲気を味わってほしいので」と河野さん。大阪の戦後文化を育んだ場所から、新たな文化が生まれんことを。

美容室 [botanico] は光と風あふれる屋上ならではの空間。外へ出れば植栽の緑に金魚の池。先日は焼き芋パーティーをしたとか。



フジカワビル

昭和27年(1952)築の5階建てビル。竣工お披露目会では、ギャラリーにマネ、モネ、セザンヌなど名画の数々が並んだという。貸店舗部分は1階37坪、2階27坪。賃料はか条件は相談で。5階にも空室あり。問い合わせは「みんなの不動産」まで。
☎06-6314-6408
<http://minfudo.com/>

第三話

大正時代の文化の殿堂。

数多くの名建築を生みだしてきた朝日新聞のなかでも、朝日会館は異色の存在だ。何と壁が全面黒塗りで、長大な窓や軒の装飾には、金色の縁取りが施されていたのだ。1926年、時代が大正から昭和へと移る時代の建築である。当時の人々は賛否両論、大きな衝撃をもってこの建築を見上げたに違いない。

朝日新聞は大正14年（1925）元旦の紙面において、大都市である大阪には、文化の発信地たる集会場と展覧会場が不可欠であり、その実現は文化事業の中心を担うべき新聞社の使命であることを説いて、朝日会館の建設を発表した。ちょうど大阪市が市域拡張され、東京市を凌ぐ日本一の都市となった年である。「大正」と呼ばれた時代だ。

大正15年（1926）10月9日に開館式を迎えた新しい建築は、地上6階地下1階の鉄骨鉄筋コンクリート造、1階と2階には新聞社の発送場とグラビア印刷の施設をおさめ、3階は各種の催しが可能な展覧会場、そして4～6階に1600人を収容する大公演場を設けた。インテリアも奇抜と



都市美を
伝えて
——朝日新聞と
中之島の130年
取材文／高岡伸一

堂島川に面して建つ竣工当時の朝日会館。背景に前回紹介した本社社屋の時計塔がみえる。左側手前の建物は大阪ガス。その後御堂筋に移転し、昭和8年（1933）に名建築として知られるガスビルを建てることになる。

いつてよいデザインで、全面的に古代エジプト文明がモチーフとなっている。舞台上部に太陽神を表象する羊頭の鷹を飾るほか、エジプトに伝わる朝日を称える賛美歌を表した象形文字や、古代エジプト美術の浮き彫りがいたるところに刻まれた。舞台の両袖には紙の原型である、パピルスを模した柱も建てられた。

人を驚かせるそのデザインは、後に朝日ビルディングの初代社長となる

村山長拳（ながたか）の影響が大きいようだ。朝日新聞の礎を

築いた村山龍平の娘婿で、

当時計画部長として朝日会館その他の建築を担当していた。関西の近代建築史に名を残す建築家、竹中工務店の松下甚三郎の設計案を見て、「これでは大阪人をアツといわせるには足らぬ」と考えた村山は、古代エジプト文明の太陽信仰と「朝日」の連想を思いついたのだという。一見突飛なアイデアに思えるが、この頃古代文明に対する関心が高まっていたこともあり、大阪市内には今もマヤ・インカ文明をモチーフにした芝川ビル（1927年竣工）

や、古代文字のようなレリーフを外観正面に飾る生駒時計店（1930年竣工）といった建築が残っている。ちなみに外装の黒と金も村山のアイデアで、黒は新聞のインクを象徴したそう。

朝日会館は昭和37年（1962）10月31日に37年の歴史を閉じるまで、文化の殿堂として京阪神の人々に広く親しまれた。関西における新劇の発信地となり、ハイフエッツやルービンシュタインなど数多くの世界的な演奏家が舞台を踏んだ。戦後初めて開催された関西交響楽団（現・大阪フィル）の第1回演奏会では、朝比奈隆がここでタクトを振っている。朝日会館が大阪の文化に果たした功績は計り知れない。その伝統は昭和33年（1958）に完成したフエスティバルホールへと引き継がれ、そして今、ホールは中之島フエスティバルタワーの建設によって再び生まれ変わろうとしている。



NAKANOSHIMA
FESTIVAL TOWER
中之島フェスティバルタワー

提供／株式会社 朝日ビルディング
<http://www.asahi.com/festivaltower/>

トウニン月報

2011年12月1日発行

12月14日からスタート!
OSAKA光のルネサンス
2011



中之島の冬のメインイベント、「OSAKA光のルネサンス2011」がいよいよ12月14日に点灯式を迎える。今年は大阪市役所から中央公会堂周辺の中央会場と、中之島公

園の東会場で開催。消費電力の少ないLEDを積極的に取り入れているほか、昼間にソーラーパネルで蓄電した電気を使用する節電に配慮したコンテンツも用意している。

OSAKA光のルネサンス2011
期間／12月14日(水)～25日(日)
点灯時間／5:00PM～10:00PM
(一部4:00PM～)
プレビュー期間／12月1日(木)～13日(火) ※一部点灯
場所／中之島一帯(大阪市役所～大阪市中央公会堂～パラ園周辺)
<http://www.hikari-renaissance.com/>

新しいコンテンツとして注目なのは、中央公会堂の「飛び出す光絵本」。建物が生き物のように動いたり、凍りついたりする飛び出す光の絵本になるという(5:00PM～9:00PM/1時間に4回程度上映)。府立図書館のウォールタペストリーやイルミネーションストリートなど、毎年好評のコンテンツももちろん健在だ。

また、関連事業として楽しいのが橋や船着場、川の護岸のライトアップ。例年ルネサンス期間中には普段とは違うライトアップを見せてくれるが、今年からは一気に9ヶ所も増える。12月14日に、中央卸売市場・堂島大橋・大阪国際会議場前港・玉江橋・日本銀行前護岸などが一斉に点灯される。こちらも恒例になった御堂筋のイルミネーションも同時に開催中。1年で一華麗やぐ中之島を楽しもう。(大迫力・本誌)

中央公会堂の見学会&コンサート

大阪市中央公会堂では、光のルネサンス開催にあわせて、なんとお得な見学会&コンサートを開催する。ふだんは自由に見学することはできない中央公会堂だが、12月23日(祝)にはワンコイン(500円)を払えば、特に美しい部屋として大集会室・中集会室・小集会室・特別室を見学できる。各室内では見どころを紹介するアナウンスが流れるため、学びながら見学できる。部屋の雰囲気をもの深く味わえるよう、クリスマスにあわせたコンサートも時間中随

イルミネーションを船から眺めるクルーズ



光のルネサンスヨラボ企画もいろいろ

水上バス・アクアライナーの「イルミネーションクルーズ」は、船に乗って土佐堀川・大川から光の輝く中之島を眺められるという贅沢なクルージング。淀屋橋港を出港し、中之島の剣先公園・八軒家浜と周り、川崎橋付近でUターンする約25分間の船旅では、光のルネサンスほか大阪城天守閣のライトアップも見られる。船の上でゆったりと楽しみ

関西のこぎりオーケストラ

サキタハヂメによって結成された70人のオーケストラ。合唱以外の部分ものこぎりのためにアレンジしたその旋律とは...? このほか、中集会室では「御殿山キラ星ハンドベルクワイア」、「まほろばフルートオーケストラ」のコンサートが行われる。



大阪市中央公会堂

ONE COIN

見学会&コンサート2011

日時／12月23日(祝)
2:00PM～9:00PM(最終入場～8:30PM)
入場料／500円
(クリアファイル付き・未就学児は無料)
問い合わせ ☎06-6208-2002

たい人には、グルメ・ミュージック船のまわりの「クリスマスディナークルーズ」がおすすめです。OAP港から出港、帝国ホテルのフルコース・ディナーとピアノの生演奏を楽しむ優雅な時間が過ごせる。ひまわりでは、この他に「クリスマスサンタクルーズ」も開催。こちらはフィンランドからやって来たサンタクロースに出会えるクルーズだ。(大迫力・本誌)



「京橋を出ますと、京都七条まで停まりません。そんな車内アナウンスも懐かしい京阪

京阪電車の名物 ノンストップ特急が ネーミング募集中!

電車の特急。京橋駅を出ると、途中は停まらず七条駅へ着くので、観光や通勤・通学で大阪・京都の二都間を移動する人にはとても重宝した。2000年以降は停車駅が増えたが、この秋の土・日・祝日には淀屋橋・出町柳の区間で（土・日のみ）復活運行していた（1日2本・12月4日まで）。

ノンストップ特急は乗客からも好評で、来春も引き続き運行する予定だが、京阪電車では現在、この列車の愛称を募集している。ABCラジオの「ドッキリ!ハッキリ!三代澤康司です」とタイアップし、列車のイメージに合う親しみやすいネーミングを募集中。採用された人には実際に使用されたヘッドマークをはじめとする豪華賞品も贈られる。ダブルデッカー（2階建て車両）を連結し、ゆったりした2人掛けのシートも心地

ノンストップ京阪特急 ネーミング募集

期間/2011年12月31日(土)まで

応募方法/ノンストップ京阪特急の愛称(読み方)・氏名・住所・年齢・性別・電話番号・京阪特急にまつわるメッセージなどを記入の上、ハガキ・FAX・HP内のメールフォームのいずれかで応募。

[はがき]〒530-8002 ABCラジオ「ドッキリ!ハッキリ!三代澤康司です」ノンストップ京阪特急ネーミング係

[FAX]06-6451-1000

[ホームページ]http://abc1008.com/miyo/keihan_naming/index.html

よい「旅」にはびつたりの列車にふさわしい愛称はどんなものだろうか? (大迫力・本誌)

頼だった。依頼主は千葉県市川市にある国府台高校。同校では30年ほど前からこうした班別研究調査を行っており、班ごとにテーマを決め、取材を行っているそうだ。その他の訪問先を見ると、あんな大会社や老舗も。その末席に加



月刊島民プレス 修学旅行生から逆取材

取材に応える編集部の大迫と、小島くん(左端)ほか国府台高校のみなさん。中之島に来てくれました! えにも、目をキラキラさせながら聞き入ってくれた高校生に、感心すると共に気持ちを新たにしたい次第。それにしても、「月刊島民」をなぜ知っているのか? 「学校の図書室にあったんです。誰かが手に入れたのか、謎は残る。(大迫力・本誌)

また、イベントバスポートに付いているチケットを使ったバルイベントも同時に開催。北浜・天満・ほたるまちなどの参加店が用意する、ワンデイスイッシュ&ワンドリンクの特別メニューめくりも楽しみ。嬉しいのは、バスポートを提

12月8日・11日にかけて開催される「OSAKA ART & CRUISE」は、中之島とその周辺のアートスポットと飲食店をめぐるイベント。期間中、中之島バンククスやアートエリアB1などでは、それぞれに個性あふれる展示やアートイベントを開催。ワークショップなどを通じて、アートを体感することもできる。

示すと指定の船着場の専用船が利用できること。中之島の水辺の移動にはおすすだ。まずはバスポートを手に入れて、どこでどんなアートや味

に出会えるのかをチェックしてみよう。(大迫力・本誌)



水辺のアートと食を 船でめぐる

OSAKA ART & CRUISE 2011

バスポートは中之島バンククスやバルの参加店舗などで発売中。

前売り3,200円、当日は3,500円。

期間/12月8日(木)~11日(日)

※船で移動できるのは9日(金)から

問い合わせ☎06-6532-9655

(OSAKA ART & CRUISE運営事務局)

http://osaka-art-cruise.com/



ルネサンス イルミネーションクルーズ

日程/12月14日(水)~25日(日)

出航時間/①6:15PM ②6:45PM

③7:15PM(予約優先、以降も多客時は増便予定) ※12月23日(祝)・

24日(土)は②、③便のみ

料金/大人1,000円、子供500円

問い合わせ・予約☎0570-035551

クリスマス ディナークルーズ

日程/12月22日(木)~25日(日)

時間/7:00PM~9:00PM

料金/13,000円(セット料金)

※予約制

問い合わせ・予約☎0570-075551

クリスマス サンタクルーズ

日時/12月23日(祝)・25日(日)

時間/①11:00AM~0:30PM

②1:30PM~3:00PM

料金/大人7,000円、子供4,500円、

幼児3,000円(セット料金、料理は

お子様ランチ) ※予約制

問い合わせ・予約☎0570-075551

京阪沿線 島民の部屋から。

取材文／狩野哲也
写真／李宗和

枚方は明治43年（1910）に京阪電車が開通して以来、大阪のベッドタウンとして発展。特に1950～70年代に団地が建設され始め、急激に人口が増加した。乗降客数は多く駅前にはぎやかだが、改札を出て南側に少し進むと、ゆるやかな丘陵地に閑静な住宅街が広がり始める。

大阪・八尾出身の智久さんと神奈川県出身の節さんは、ふたりが仕事に行きやすい場所として枚方市を選んだ。節さんは中之島近辺の企業で働いており、「通勤快急で中之島線を使えば1本で行けるから枚方市駅は楽ですよ。駅前に百貨店もスーパーもすべて揃っているので大満足です」と語る。一方、智久さんはデザイン事務所の営業担当として働き、自宅に仕事場がある。「京都や大阪にクライアントが多く、枚方は打合せに行くのに便利です。大阪市内へは20分で京都市内へは30分ぐらいですから」と、やはり満足そうだ。



ふたりとも朝はコーヒーで一服するのが日課なのだそうです。

枚方市 堀智久さん・節さん 私生活が充実する、 枚方での健康的な暮らし。



Data 住居占有面積95.53平方メートル。約28.89坪。ほぼスクエアで使いやすい広々としたリビングとダイニング。そして板間と内障子のある約6畳の本格和室。智久さんの仕事部屋、寝室、さらにもう一室あり。部屋のあちこちにある東京タワーのオブジェや写真は節さんの趣味。



互いに某外資系商社の大阪支店と東京本社で働き、遠距離恋愛をしていたという堀夫妻。現在、智久さんは大阪市内のデザイン会社「株式会社キョウツウデザイン」のマーケティングダイレクターとして活躍中。

<http://kyo2.com/>



上／棚のコーヒーカップや料理本は気分にあわせて入れ替える。「眺めるのが好きなんです(笑)」と節さん。中／バルコニーはたくさん花で彩られている。下／智久さんの仕事部屋。サイクリング用の自転車が部屋のオブジェに。

うちの近所のお気に入り。



淀川河川公園

淀川の広大な自然環境を有効に利用するため、昭和47年(1972)に事業化した日本最初の国営河川公園。野球場36面、テニスコート55面、陸上競技場7面、サッカーラグビー場8面、フットサルコート3面など、さまざまなグラウンドが用意されている枚方周辺スポーツマンの聖地。駐車場420台完備。智久さんは体力づくりのためによくジョギングに活用しているそう。ほかにも1万人収容の野外ステージ・淀川アクアシアターや噴水広場、バーベキューができる区域もあり。詳細は<http://www.2kasen.or.jp/>

リビングは天井が高くシンプルで開放感がある。智久さんは新卒で働いた会社でインテリアの仕事をしていたそう、その縁でセンスの良い家具を安く仕入れることができたそう。「ソファ前の机は枚方家具団地の家具屋さんで購入しました。アジアンテイストなインテリアの中に地元の製品が溶け込んでいると、遊びに来た方がみんな驚きますね」。

リビングの一端には節さんが誕生日にお母様から一個ずつ買ってもらったというウエッジウッドのティーセットが大事に陳列されている。毎日、コーヒーや紅茶、中国茶などでティータイムを楽しんでいるそう。テレビのそばにはワインセラーもあり、おふたりとも身体をリラックスさせる時間を大切にされているのだとか。

智久さんの身体への気遣いは趣味のテニスにも繋がっている。八尾にお住まいの頃から地元のテニスサークルに入っており、枚方に引越してからはいつも対戦する寝屋川のチームに移籍し

た。練習場所のテニスコートは淀川の河川敷だ。「駅の北側にある病院の裏はもう河川敷なんです。テニスの体力をつけるためにジョギングやサイクリングでトレーニングしているのですが、

走りやすく、風が気持ちよくて最高ですね。家で料理をつくって持って行くこともありますよ」。堀さん夫妻の暮らし方は、枚方の魅力を楽しむお手本のような暮らしだ。



岡山の家具屋の倉庫まで見に行ったという家具で揃えられているリビング。基本的に余計な物を置かない主義なんだそう。

シマにまつわるあれこれの名刺を勝手にデザイン
ワタクシ、こういう者です。
デザイン／長友啓典



私ノ名ハ学天則デアル。
「東洋初ノロボット」ダト言ウ人モイル。

右手ニベン、左手ニハライトヲ持ッテイル。
コノライトハ「靈感燈」ト言ッテ、
インスピレーションヲ感じル光ルノダ。ソシテソレヲ上ニカザシ、
閃キラベンデ書キ留メルノダ。ドウダ、スゴイダロウ。
実ヲ言エバ、私ハ4代目ノダ。
モトモトハ昭和3年(1928)、昭和天皇ノ即位ヲ記念シタ博覧会ニ
大阪毎日新聞ガ出品シタモノダッタ。
ソノ後、大阪市立科学館ガ復元シテクレタガ、コノ時ハ動カナカッタ。
ダガ、4年前ニ科学館ノ学芸員ノ長谷川クンガ
見事ニマタ動クヨウニシテクレタノダ。
最初ノ開発者デアル西村真琴博士ハ、自然ヘノ敬意ヤ
社会ヲ愛スル心ヲ養ウタメニ私ヲ造ッテクレタノダソウダ。
子供タチヨ、私ヲ見テ、科学ニ興味ヲ持ッテ、
新シイ発見ヲシテクレバ、西村博士モキッ喜ンデクレルダロウ。

ユウビンバンゴウ五三〇ノ〇〇五
オオサカシタナカシマ四ノ一
デンワ：〇六ノ六四四四ノ五六五六
カイ カン ジ カン
ゴゼンルジミ〇フンゴゴ五ジ
ニウジョウハゴゴ四ジミ〇フンマデ
キユウカンビ：ゲツヨウビ
シユクジツノバアイハカイカン
ヨクヘイジツニキユウカン

◎名刺のココロ

明治初期に「東洋初のロボット」などというとてもいいものができたなんて、いかにも大阪らしく好きだ。復刻されて大阪市立科学館の目玉になっている学天則が自己紹介をするとしたら、このデザインしかないだろうと思う。

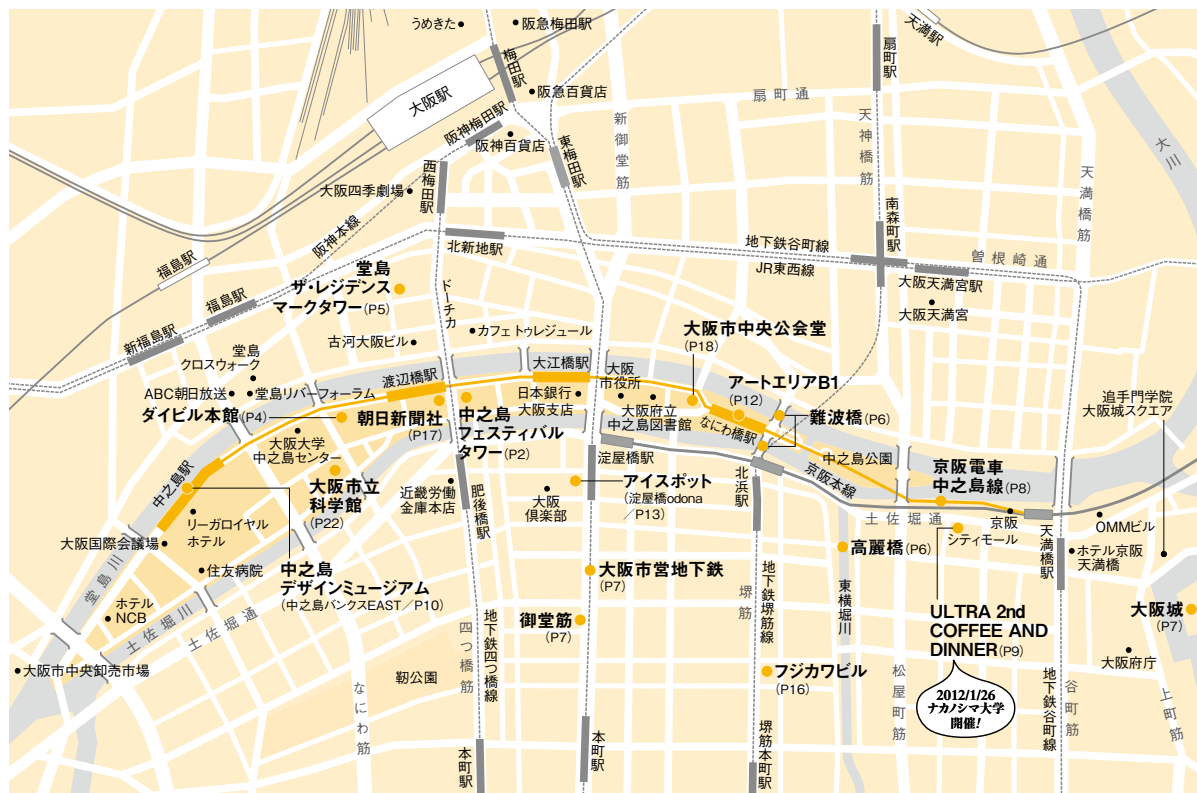
ながとも・けいすけ

1939年大阪生まれ。1964年日本デザインセンター入社。1969年黒田征太郎とK2設立。エディトリアル、各種広告を手がけるほか、多数の小説に挿絵、エッセイを連載。自身が手がけた名刺デザインをまとめた『成功する名刺デザイン』（共著・講談社）も発売中。

「ぜひあの人の名刺を」「あの場所を擬人化して名刺を作ったら面白い」などのリクエストを募集します。
あなたの作ってほしい名刺のプランをお寄せ下さい！ uketsuke@140b.jp

大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、
みんな「島民」です！



『月刊島民』はここでもらえます。

- 京阪電車関連** 京阪電車主要駅／京阪シティモール／京阪モール／デリススタ天満橋店／ホテル京阪天満橋／ホテル京阪京橋
- 大阪市北区・中央区・福島区** 書店 旭屋書店本店／旭屋書店梅田地下街店／旭屋書店堂島地下街店／カベラ書店／紀伊国屋書店本町店／ジュンク堂書店大田本店／ジュンク堂書店梅田ヒルトンプラザ店／ジュンク堂書店天満橋店／MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店／スタンダードブックスア／ブックススタジオ／天神塚書店大江橋店／ブックファースト梅田店／ブックファースト淀屋橋店／文教堂書店淀屋橋店／隆祥館書店【公共施設・大学関連施設など】アイスポット／朝日カルチャーセンター／味の素 食のライブラリー／ABC朝日放送／大阪企業家ミュージアム／大阪倶楽部／大阪工業技術専門学校／大阪国際会議場／大阪市社会福祉研修・情報センター／大阪市中央公会堂／大阪市立中央図書館／大阪市役所市民情報プラザ／大阪城天守閣／大阪商工会議所／大阪大学中之島センター／大阪21世紀協会／大阪府立中之島図書館／大阪フィルハーモニー会館／大阪ボランティア協会／大阪歴史博物館／追手門学院 大阪城スクエア／関西学院大学 大阪梅田キャンパス／慶應大阪リバーサイドキャンパス／国立国際美術館／CITY NAIL'Sインターナショナルスクール／芝川ビル／市立住まい情報センター／中央電気倶楽部／ホテルNCB／メビック扇町／ろうきんギャラリー心斎橋
- [店舗・医院など] アリアスカー マーブルトレ／アンドール 本町本店／上町貸自転車／Ultra 2nd／江戸前鯉料理 志津可／EXPO CAFE／MJB珈琲店／大西洋服店／O.O.O (オーオー)／カセッタ／喫茶センター／喫茶SAWA／グランドスイート中之島／黒門さかえ／モンカフェ／サトウ花店 中之島本店／サ・メロディ／じろう亭／Grond's JR／心斎橋山田兄弟歯科／住友病院／セブンイレブン大阪証券取引所店／タビエスタイル／ティーハウスジカ／たまがわ鍼灸整骨院／東郷歯科医院／NAKAGAWA1948 淀屋橋店／ナンジャノ／バスターレー／花かつ／BAR THE TIME 天神／平岡珈琲店／ビルマニアカフェ／フレイルハウス／ミニジロー／宮崎歯科／やきとり ばかや／吉田理容所／ラ・クッカーニヤ／LES LESTON
- 大阪市内その他** 書店 伊勢屋書店／大阪書店／紀伊国屋書店 京橋店／なんばミヤタ／福島書店／柳々堂 【公共施設・大学関連施設など】大阪市社会福祉研修・情報センター／大阪市立図書館 【店舗・医院など】あじさい／アートアンドクラフト／欧風食堂 ミリパル／大阪市信用金庫 江戸堀支店／御船かもめ／Cale Bookshop and cafe／写真とプリント社／鳥かごキッチン／ネイルサロン スワンナ／バルビコ／ホテル64オオサカ／MANGUEIRA／Loop A
- 大阪府下** 旭屋書店 京阪守口店／学運堂 フレスト店／Books 呼文堂／水嶋書房 くずはモール店／水嶋書房 くずは駅店／大阪狭山市立図書館／大阪大学企画部広報・学芸連携事務室／大阪大学21世紀記念堂／大阪大学本部／寝屋川市役所／摂南大学 地域連携センター／郵政考古学会／ゆったりんこ
- 大阪府以外** ジュンク堂書店 新宿店／ジュンク堂書店 西宮店／水嶋書房 丹波橋店／伊丹市文化振興財団・街・発信／納屋工房／タバーン・シンブロン／百練／山市民図書館／奈良県立図書館情報館

◎バックナンバーお譲りします。

バックナンバーをご希望の方には1冊100円(手数料)でお譲りしています。なお、品切れの号もありますが、予めご了承ください。お問い合わせは下記の電話番号まで。

◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

次号予告 島民が語る「2012年の夢」。

新年第1回目となる特集は、中之島に関わる街のキーマンが勢揃い。
「今年やりたいこと」を語ってもらう中から、2012年を展望します。

●『月刊島民』vol.42は2012年1月1日発行です！

編集・発行人／江 弘毅(編集集団140B)
編集・発行／月刊島民プレス
若狭健作 網本武雄(株式会社 地域環境計画研究所)
松本 創 大迫 力(編集集団140B)
〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
Tel 06-4799-1340 Fax 06-4799-1341
制作進行／堀西 賢(ALEGRESOL)
デザイン／山崎慎太郎
表紙イラスト／奈路道程
印刷／佐川印刷株式会社

京都へは、 淀屋橋から 京阪特急で。



おけいはん(楠葉けい子)

地下鉄から
のりかえ便利
淀屋橋から
10分間隔で発車

※一部時間帯を除く。

こだわりの
快適シートで
いい乗り心地

京都の名所が
駅の近く



おけいはん^け
の
る
人、

ABC(朝日放送)とコラボ!
『ノンストップ京阪特急』
素敵なネーミング大募集!

ABC(朝日放送)ラジオとコラボレーションして、京都への行楽シーズンに運行(予定)する京橋駅から七条駅間がノンストップの「ノンストップ京阪特急」のネーミングを募集しています。応募者には、抽選で素敵な賞品もプレゼント。

[応募期間] 2011年12月31日(土)まで

[応募方法] ノンストップ京阪特急のネーミング(読み方)・お名前・住所・年齢・性別・電話番号・京阪特急にまつわるメッセージなどをお書きの上、ご応募ください。

▶ハガキから 〒530-8002 ABCラジオ「ドッキリ!ハッキリ!三代澤康司です」ノンストップ京阪特急ネーミング係

▶FAXから 06-6451-1000

▶インターネットから http://abc1008.com/miyo/keihan_naming/

[今後のノンストップ京阪特急 運行予定] 2012年3月中旬～5月下旬(今回の募集で決定した新しいネーミングで運行します)